

小委員会の調査報告書

教科名	技術・家庭	委員長名 山本 以久子
調査研究の経過	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(木)に、稚内市役所正庁で開催し、技術・家庭小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月3日(金)から7月14日(火)まで、「教科書見本本」、「教科書編集趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月15日(水)に、稚内総合文化センター小ホールで開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東書、教育図書、開隆堂、三社である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(4) 「その他」について</p>	
調査研究に当たったことの配慮事項	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各分野や各領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫されているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
少数意見その他	<p>特に、記載事項はありません。</p>	

様式 2

教科名	技術・家庭（技術分野）		
	出版社名	教科書名	番号
	2・東書	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	技術・724
取扱内容	<p>○ 次の技術分野の目標を達成できるよう、学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 技術と社会や環境との関わりについての理解、技術を適切に評価・活用する能力への対応</p> <p>「A材料と加工に関する技術」において、</p> <p>① 材料の特徴や加工法について学び、生活に役立つ製作品を作る活動</p> <p>② 循環型社会や3Rなどの持続可能な社会を実現するための方法を話し合ったり、自分で製作した製作品と市販されている製品を比較したりする活動</p> <p>「Bエネルギー変換に関する技術」において、</p> <p>① エネルギーの有効利用の方法や仕組み、機器の保守点検について学び、技術を利用した製作品を作る活動</p> <p>② 発電構成割合を考えたり、エネルギー変換に関する技術を環境、経済、社会などの側面から比較したりする活動</p> <p>「C生物育成に関する技術」において、</p> <p>① 生物が育つ条件と環境を管理する方法について学び、地域の環境に適した生物を育てたり、地域の特産物を調べ、その理由を考えたりする活動</p> <p>② 生産者と消費者の立場に立って農薬の使用について話し合ったり、学習した生物を育てる技術を環境的、経済的、社会的側面から比較したりする活動</p> <p>「D情報に関する技術」において、</p> <p>① 情報通信ネットワークの仕組みや利用法を学び、デジタル作品などの制作やプログラミングをする活動</p> <p>② 商業施設における、消費電力や自動運転・隊列走行システムなどの情報技術を知る活動や、情報に関する技術を選び、環境（エネルギー）、社会、経済的側面などから比較する活動</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、学習内容を14の題材（43の小題材）で構成するとともに、各編について、4つの内容に関する基礎的・基本的な知識を習得した後に、製作や実習を行い、技術の適切な評価・活用を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A材料と加工に関する技術」は90頁、「Bエネルギー変換に関する技術」は56頁、「C生物育成に関する技術」は44頁、「D情報に関する技術」は64頁であり、総頁数は290頁で、前回より約12%増となっている。</p> <p>○ 大きさは、AB判である。</p> <p>○ 見開き頁の左右両端に、図表・写真・資料等を多く掲載し、視覚に訴える工夫がなされている。</p> <p>○ 「基礎技能」をまとめて掲載し、必要な時に調べたり確認したりできるよう工夫されている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各編の始めに、「この編で学ぶこと」を設けている。 ・各見開きの下に、「パラパラ写真」と「ひとくちQ&A」を設けている。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の実習例を示している。 ・「～よう」マークで、始めやまとめの活動を示している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各頁の横に見出しをつけている。 ・実習等で安全に活動できるよう「安全」と「衛生」マークを示している。 ・全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすいフォントにするなど工夫されている。 		
その他	<p>・巻末に付録として「防災手帳」が掲載されており、学習したことを生かせるよう取り外して日常で使えるようになっている。</p>		

様式 2

教科名		技術・家庭（技術分野）	
	出版社名	教科書名	番号
	6・教図	新技術・家庭 技術分野	技術・725
取扱内容	<p>○ 次の技術分野の目標を達成できるよう、学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 技術と社会や環境との関わりについての理解、技術を適切に評価・活用する能力への対応</p> <p>「A材料と加工に関する技術」において、</p> <p>① 材料の性質、設計の必要性を学び、正確なものづくりをする活動</p> <p>② プラスチックや金属材料のリサイクルの方法を知り、最新の電波塔など、材料や加工の技術が日常生活に与える影響を考える活動</p> <p>「Bエネルギー変換に関する技術」において、</p> <p>① 生活の中で利用される機械や電気器具のはたらき・仕組みを理解し、エネルギーの利用方法について考える活動</p> <p>② ハイブリッド車等のエネルギーを節約する技術を調べ、エネルギーの厳しい現実と変換に関する技術を選び、環境、経済、社会などの側面から比較する活動</p> <p>「C生物育成に関する技術」において、</p> <p>① 作物の栽培や動物の飼育を計画的に進める手順、生育環境の調節方法を理解し、野菜や花を育てる活動やコンプレックス（複合）型植物工場を例に生物育成の技術の将来を考える活動</p> <p>② 有機質肥料や有機質肥料を用いた栽培が見直されている理由を考える活動やLEDの人工照明を用いた植物工場（野菜工場）の利点を考える活動</p> <p>「D情報に関する技術」において、</p> <p>① 生活や社会を支えているコンピュータやネットワークの仕組みについて考え、デジタルポスターの制作をする活動</p> <p>② コンピュータを活用して、機能や性能が向上している例を調べ、コンピュータやネットワークのはたらき、問題を解決する技術的アイデアの重要性を考える活動</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、学習内容を10の題材（24の小題材）で構成するとともに、各章について、4つの内容に関する基礎的・基本的な知識を習得した後に、製作や実習を行い、これからの技術を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A材料と加工に関する技術」は80頁、「Bエネルギー変換に関する技術」は54頁、「C生物育成に関する技術」は56頁、「D情報に関する技術」は60頁であり、総頁数は278頁で、前回より約9%増となっている。</p> <p>○ 大きさは、B判である。</p> <p>○ 図表・写真・資料等を多く掲載し、視覚に訴える工夫がされている。</p> <p>○ 見開き頁の左側に作業工程、右側にそれに関する基礎技能を掲載し、作業をしながら確認できる工夫がなされている。</p>		
使用上の配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各編の始めに、見開きで各内容の「トピック」を設けている。 ・各節の始めに、その節のねらいと、興味・関心を高める事項を示している。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の実習例を示している。 ・「考えよう」マークで学習の課題を示している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習例の頁の上段に、実習の工程の流れを示している。 ・実習等で安全に活動できるよう「安全」と「注意」マークを示している。 ・全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすいフォントにするなど工夫されている。 		
その他	<p>・巻末に「さまざまな工具」など、各領域で参考になる資料がまとめられている。</p>		

様式 2

教科名	技術・家庭（技術分野）		
	出版社名	教科書名	番号
	9・開隆堂	技術・家庭（技術分野）	技術・726
取扱内容	<p>○ 技術分野の目標を達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 技術と社会や環境との関わりについての理解、技術を適切に評価・活用する能力への対応</p> <p>「A材料と加工に関する技術」において、</p> <p>① ものづくりが社会や生活に果たしている役割について考え、材料と加工に関する知識を活用した製作品の設計・製作する活動</p> <p>② 製品の設計の意図を話し合ったり、生活の中で利用されている技術や製品を複数の観点を立てて評価し、問題点や将来望まれる技術を考えたりする活動</p> <p>「Bエネルギー変換に関する技術」において、</p> <p>① エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について考え、製作品の設計・製作をする活動</p> <p>② ハイブリッドカー等が普及してきた理由や今後の改良点を話し合う活動、エネルギー変換の技術を利用した製品のライフサイクルを調べ、各段階のエネルギー変換の技術の役割と影響を話し合う活動</p> <p>「C生物育成に関する技術」において、</p> <p>① 生物の育成環境と育成技術について考え、技術を利用して栽培または飼育したり、生活をよりよくするために、生物育成に関する技術を家庭生活に生かす方法を考えたりする活動</p> <p>② イチゴの石垣栽培が発展している理由・改良点を話し合ったり、イネが気温の低い地域で多くの収穫を得ることができるようになった理由・改良点を考えたりする活動</p> <p>「D情報に関する技術」において、</p> <p>① 情報通信ネットワーク・情報モラルについて知り、デジタル作品の設計・制作・プログラミングをする活動</p> <p>② 自分たちが目的地まで移動する際の情報を集める手段の利点と問題点を話し合ったりする活動、家族が情報端末を使用して連絡をする際の利点と問題点を話し合ったりする活動</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、学習内容を32の題材（92の小題材）で構成するとともに、各編について、4つの内容に関する基礎的・基本的な知識を習得した後に、製作や実習を行い、技術の適切な評価・活用を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A材料と加工に関する技術」は96頁、「Bエネルギー変換に関する技術」は44頁、「C生物育成に関する技術」は40頁、「D情報に関する技術」は68頁であり、総頁数は、270頁で前回より約3%増となっている。</p> <p>○ 大きさは、B判である。</p> <p>○ 図表・写真・資料等を多く掲載し、視覚に訴える工夫がされている。</p> <p>○ 「基礎技能」については、ていねいな説明と同時に簡単な修正方法も掲載している。</p>		
使用上の配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各編の始めに、見開きで各内容に関する「技術の歴史」を設けている。 ・各見開きの下に、「豆知識」を設けている。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の実習例を示している。 ・「～みよう」マークで学習の課題を示している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各頁の横に見出しをつけている。 ・実習等で安全に活動できるよう「安全」マークを示している。 ・全ての生徒が学習しやすいよう、識別しやすい配色にするなど工夫されている。 		
その他	<p>・巻末には、「コンピュータの基本操作」や各ソフトウェアの使い方などについて掲載している。</p>		

様式 2

教科名	技術・家庭（家庭分野）		
	出版社名	教科書名	番号
	2・東書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	家庭・724
取扱内容	<p>○ 次の家庭分野の目標を達成できるよう、学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 家庭の機能についての理解、これからの生活をよりよくしようとする能力と態度への対応</p> <p>「A家族・家庭と子どもの成長」において、</p> <p>① 自分の成長について振り返り、家族や地域の人との関わりや幼児の心と体の発達について考えたり、幼児と触れ合ったりする活動、「地域の人と触れ合う」などの知識・技能を活用する活動</p> <p>② これからの家族関係について、ロールプレイングを通して色々な立場に立って考えたり、家族関係をよりよくする方法を話し合ったりする活動</p> <p>「B食生活と自立」において、</p> <p>① 中学生に必要な栄養のとり方や栄養バランスのとれた1日分の献立について考えたり、肉や魚・野菜の調理をしたりする活動、「日本の食文化を追求する」などの知識・技能を活用する活動</p> <p>② 食生活を取り巻く課題について考え、食生活をよりよくする方法を話し合う活動</p> <p>「C衣生活・住生活と自立」において、</p> <p>① 衣服の選択や手入れの方法、住まいの働きや安全で快適な住まい方について考え、布を使って衣生活・住生活に関わる物を製作する活動</p> <p>② 環境や資源に配慮した着方の工夫や心地よい住まい方の工夫を考え、昔ながらの気候風土に合わせた暮らし方のよさについて話し合う活動</p> <p>「D身近な消費生活と環境」において、</p> <p>① 日頃の購入の仕方を振り返り、消費者としての自覚を高め、商品の適切な選択や購入などの消費のあり方について考える活動</p> <p>② 消費者として主体的に行動できるように、消費者トラブルを解決する方法について理解を深め、エネルギー消費を減らす方法について考えたり、よりよい消費生活と環境について話し合ったりする活動</p>		
内容の構成・ 排列・ 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、日本各地の郷土料理や地域の食材を活用した調理実習を取り上げ、生徒の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるような構成するなど、発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A家族・家庭と子どもの成長」は69頁、「B食生活と自立」は87頁、「C衣生活・住生活と自立」は83頁、「D身近な消費生活と環境」は59頁であり、総頁数は、279頁で前回より約8%増となっている。</p> <p>○ 大きさは、A B判である。</p>		
使用上の 配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の概量を手ばかり、目ばかりで示したり、幼児の靴や箸を実物大の写真で示したりするなど、学習内容についての課題意識や興味・関心をもたせるようにしている。 ・「ひとくちQ&A」を掲載したり、キャラクターが学習のポイントを示したりするなど、生徒が親しみをもって学習できるようにしている。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が必要に応じて調べたり、確認したりしながら学習を進めることができるよう、意思決定のプロセスの例示や調理、被服製作等に関する基礎的・基本的な知識及び技能を「基礎技能」としてまとめた資料を掲載している。 ・学習課題を解決する際に、本文の内容をより深く理解する上で参考となる内容に「資料」のマークをつけて掲載している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、家庭分野の学習内容や学習の進め方、家庭分野のガイダンスを掲載し、生徒が3年間の学習の見通しをもつことができるようにしている。 ・今日的な課題に関する学習内容に「環境」「消費者」などのマークを付けることやキャラクターが学習活動について、つぶやくことなど、多様な視点から学習できるようにしている。 ・全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすいフォントにするなど工夫されている。 		
その他	<p>・献立が立てやすいように豊富な実習例や組み合わせる料理例が掲載されている。</p>		

様式 2

教科名	技術・家庭（家庭分野）		
	出版社名	教科書名	番号
	6・教図	新技術・家庭 家庭分野	家庭・725
取扱内容	<p>○ 次のような家庭分野の目標を達成できるよう、学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 家庭の機能についての理解、これからの生活をよりよくしようとする能力と態度への対応</p> <p>「A家族・家庭と子どもの成長」において、</p> <p>① 家庭の役割や家族・地域とのかかわり方について考えたり、幼児の発達、特徴を考え、幼児と触れ合ったりする活動、「地域でボランティア活動しよう」などの知識・技能を活用する活動</p> <p>② 将来の自分の家族や家庭について思い描き、よりよい家庭生活について考える活動</p> <p>「B食生活と自立」において、</p> <p>① 中学生の食生活に関心を持たせ、中学生に必要な栄養の特徴を知り、1日分の献立について考えたり、肉や魚、野菜などの調理をしたりする活動</p> <p>② 食習慣が心身の健康に与える影響を考え、よりよい食習慣について話し合う活動</p> <p>「C衣生活・住生活と自立」において、</p> <p>① 安全な住まい方の工夫や自然災害への対策、衣服の計画的な活用について考えたり、エプロンやきんちゃく袋などを製作したりする活動</p> <p>② 室内環境の整え方を知り、快適に住まうための工夫を実践する活動や「わが家の防災対策」を考え話し合う活動</p> <p>「D身近な消費生活と環境」において、</p> <p>① 消費者として主体的に行動できるように、消費者トラブルの解決法と予防法について理解を深めたり、消費行動が環境に与える影響について考えたりする活動</p> <p>② 消費者市民社会の実現や環境に配慮した消費行動について考え、よりよい消費生活について話し合う活動</p>		
内容の構成・排列・分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、全国各地の郷土料理や日本全国のお雑煮マップを取り上げ、生徒の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるよう構成するなど、発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「A家族・家庭と子どもの成長」は65頁、「B食生活と自立」は78頁、「C衣生活・住生活と自立」は78頁、「D身近な消費生活と環境」は64頁であり、総頁数は、286頁で前回とほぼ同様となっている。</p> <p>○ 大きさは、B判である。</p>		
使用上の配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品や子どもの手形など原寸大写真で示したり、料理の失敗例を示したりするなど、学習内容についての課題意識や興味・関心をもたせるようにしている。 ・「コラム」を掲載したり、キャラクターが学習のポイントを示したりするなど、生徒が親しみをもって学習できるようにしている。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が必要に応じて調べたり、確認したりしながら学習を進めることができるよう、キーワードチェック欄や各章の終わりに「学習のふり返し」、教科書の記述についての詳しい資料を掲載している。 ・学習課題を解決する際に、本文の内容をより深く理解する上で参考となる内容に「資料」のマークをつけて掲載している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、家庭分野の学習内容や学習の進め方、教科書の使い方を掲載し、生徒が3年間の学習の見通しをもつことができるようにしている。 ・今日的な課題に関する学習内容に「安全」「環境」などのマークを付けることや、キャラクターが学習活動について、つぶやくことなど、多様な視点から学習できるようにしている。 ・全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい配色にするなど工夫されている。 		
その他	<p>・1日分の献立が作成しやすいよう主食・主菜・副菜・汁物・デザート順に実習例を掲載している。</p>		

様式 2

教科名		技術・家庭（家庭分野）	
	出版社名	教科書名	番号
	9・開隆堂	技術・家庭（家庭分野）	家庭・726
取扱内容	<p>○ 次のような家庭分野の目標を達成できるよう、学習活動が取り上げられている。</p> <p>① 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、活用、探求への対応</p> <p>② 家庭の機能についての理解、これからの生活をよりよくしようとする能力と態度への対応</p> <p>「A家族・家庭と子どもの成長」において、</p> <p>① 家庭のはたらきや家族の仕事を支える社会について考えたり、幼児の心や体の発達について知り、幼児と触れ合ったりする活動</p> <p>② ロールプレイングを通して家族の気持ちを考え、これからの家族関係をよりよくする方法について話し合う活動</p> <p>「B食生活と自立」において、</p> <p>① 中学生の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割や中学生に必要な栄養を取り入れた1日分の献立について考えたり、肉や魚、野菜の調理をしたりする活動</p> <p>② 食生活と環境との関わりについて考え、食品やエネルギー、資源をむだにしないために自分たちで取り組めることを話し合う活動</p> <p>「C衣生活・住生活と自立」において、</p> <p>① 家庭内での事故と安全対策や地震対策について考えたり、清潔で自分らしい着方や日常着の手入れについて理解し、道具入れやショルダーバッグなどを製作したりする活動</p> <p>② 環境に配慮した住生活や衣生活を送るために工夫できることを考え、話し合う活動</p> <p>「D身近な消費生活と環境」において、</p> <p>① 消費者として主体的に行動できるように、消費生活のトラブルへの対応について理解を深めたり、環境に配慮した消費行動について考えたりする活動</p> <p>② 資源を節約し持続可能な社会に必要な生活スタイルについて考え、話し合う活動</p>		
内容の構成・	○ 内容の構成・排列については、地域の食材を活用した郷土料理やおせちなどの行事食を取り上げ、生徒の興味・関心や地域の実態に応じて取り扱う内容を選択できるよう構成するなど、発展的に学習できるよう工夫がなされている。		
排列・	○ 内容の分量については、「A家族・家庭と子どもの成長」は63頁、「B食生活と自立」は78頁、「C衣生活・住生活と自立」は72頁、「D身近な消費生活と環境」は66頁であり、総頁数は、278頁で前回より約5%増となっている。		
分量等	○ 大きさは、B判である。		
使用上の配慮等	<p>○ 学習意欲を高める工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 著名人や専門家の話を掲載したり、実物大の食品例を示したりするなど、学習内容についての課題意識や興味・関心をもたせるようにしている。 ・ 「豆知識」を掲載したり、キャラクターが学習のポイントを促したりするなど、生徒が親しみをもって学習できるようにしている。 <p>○ 主体的に学習に取り組むことができるような工夫については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が必要に応じて調べたり、確認したりしながら学習を進めることができるよう、教科書の記述を補足する図・表や「ミシンの使い方」などの小学校で学習した基礎的・基本的な内容を想起する資料を掲載している。 ・ 学習課題を解決する際に、本文の内容をより深く理解する上で参考となる内容に「参考」のマークをつけて掲載している。 <p>○ 使用上の便宜については、次のようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻頭に、家庭分野の学習内容や学習の進め方、教科書の使い方を掲載し、生徒が3年間の学習の見通しをもつことができるようにしている。 ・ 今日的な課題に関する学習内容に「消費・環境」「防災」などのマークを付けることやキャラクターが学習活動について、つぶやくことなど、多様な視点から学習できるようにしている。 ・ 全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい配色にするなど工夫されている。 		
その他	・ 豊富な実習例を掲載し、「プラス1」頁で献立に1品を加えることができるよう工夫されている。		

